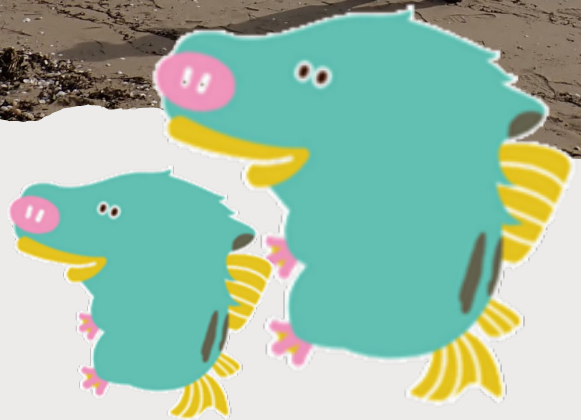
資料1

矢作川流域圏懇談会
全体会議　中間報告会

2024年2月2日（金）



写真：市民部会企画　山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアーより

各部会の当初目標と活動実績

令和5年・6年の活動目標

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（山村ミーティングと森づくりガイドラインは協働）を軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

テーマ別の活動目標

①流域圏担い手づくり事例集

・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ｖ」を刊行する。
・山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
・特に、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった幸田町における団体を取材する。
・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
・事例集交流会を開催する。

各部会の当初目標と活動実績

②山村ミーティング

・ 山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
・ 3年前までの矢作川感謝祭では、流域の森林組合員の参加が定着傾向にあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度はイベント自体が中止となった。今後は、このイベントが林業関係者の交流の場として、どのような役割を果たすのか、開催を支援しながら再検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
・水循環基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域
における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働（矢作川流域山づくりガイドブック策定）

・流域４森林組合の現場森林技能者育成と現行施業ガイドラインについてのヒヤリングを進める
・豊田森林組合で取り組まれている現場森林技能者育成トレーナー養成の実際の研修を４組合の現場技能者＋事務方で共有する。
・ヒヤリング結果と豊田森組トレーナー研修の感想から、流域全体の人材育成と山づくりガイドブック策定について検討する。

各部会の当初目標と活動実績

④木づかいガイドライン（1）

【木づかいガイドラインの作成】

・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。

【「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作とその理念と製作方法を普及】

・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。

・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。

各部会の当初目標と活動実績

④木づかいガイドライン（2）

【木づかいと森林アクティブ系・癒し系プログラムによる市民創造型プロジェクトの実施】

・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ　スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。

・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。

・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。

・神奈川県山北町において開催された「大人の木育」の講師を務めた流域連携から、現在南都留森林組合との連携事業がスタートした。今後、道志村のキャンプ施設を対象とした森林づくりワーク及び木のアイテムによるプレイスメイキングを進めていく。

【矢作川流域の活動拠点の木質化の事例収集と支援】

・学童保育、森の幼稚園、里山等で森づくりワークを進めていくにあたり、それらの活動拠点施設及びトイレが必要である。愛知県の学童施設に愛知県産材のスギ材が「板倉構法」として使われており、こうした事例を参考に矢作川流域材を活動拠点及びトイレ等の施設に活用していく。

各部会の当初目標と活動実績

＜1＞今年度の活動実施状況と今後の予定

活動実施状況（参加者数）		日時	場所
5月 豊田市	第66回ＷＧ（16名）	5月19日（金）	・つくラッセル（旧築羽小学校）
	フィールドワーク①（20名）	5月20日（土）	・小原交流館　・市場城跡
7月 根羽村	第67回ＷＧ（22名）	7月28日（金）	・老人福祉センターしゃくなげ
	フィールドワーク②（22名）	7月29日（土）	・Jクレジット対象林　・里山展望デッキ ・村民活動拠点くりや　・コウヨウザン植栽地
9月 恵那市	第68回ＷＧ（22名）	9月15日（金）	・上矢作コミュニティセンター
	フィールドワーク③（11名）	9月16日（土）	・上矢作養蜂場

今後の活動予定		日時	場所
R6年 5月活動	第70回ＷＧ・FW	5月	未定
7月活動	第71回ＷＧ・FW	7月	未定
9月活動	山部会まとめの会・FW	9月	未定

各部会の当初目標と活動実績

＜2＞流域圏担い手づくり事例集（テーマ①）

○流域圏担い手づくり事例手交流会2023の実施

2021～22年度に2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を発行し、流域圏の木材を利用して都市域の自治的なまちづくりを促進した活動を紹介。5／19に開催した交流会では2冊の事例集の取材対象者に活動をご発表頂き、33名の参加がありました。

●流域圏での人の繋がりが生まれている

鈴木健一さん（森と子ども未来会議）
・地域の森から学童保育所を木造化　街に森を作るPJ・

プレハブが多い学童保育施設の住み心地をよくするため、木造の板倉建築で着工。今年は10棟目の着工を開始。施設の木造化により、室内が快適になったと好評を頂いている。

名畑恵さん（錦二丁目エリアマネジメント株式会社）
・都市の木質化を中心とした錦二丁目のまちづくり・

まち全体が木で覆われているような「まちの美しさ：都市の木質化」を構想の大切な柱として、錦二丁目の街づくり事業を行う。現在は木質化を暮らしの歳時記のように続ける仕組みづくりを作成中。

東海林修さん（東海林建設設計事務所）
・学童保育施設の木造化の取り組み・

歴史的建造物に用いられている、板倉構法に関わる。木造の施設は子供にやさしいほか、木の生産者と町のつながりを感じることができるため、今後も関りを広げていく活動を行いたい。

大橋俊夫さん（再生空間合同会社）
・錦二丁目での取り組み -都市の木質化プロジェクト-・

都市の木質化で、錦二丁目に設置されるベンチや棚や机などの制作、指導を行う。歩行環境を改善するため長者通りに作ったウッドテラスが角材やデッキやベンチに再利用され、木材はリユースしやすい素材だと感じる。

小嶋哲志さん（あおぞら学童保育クラブ）
・「木の家プロジェクト」について・

学童施設が木造化されることにより、音、温度、湿度などの環境が整い、多くの子供が一緒に過ごせるようになった。また、近隣の方々が集まるようになり、保育所は地域コミュニティという役割も持つようになった。

山田政和さん（豊田森林組合）
・都市の木質化に関わって考え方が変わったこと・

2013あいちトリエンナーレで長者町のビジターセンターを豊田の木で内装したのがきっかけで、都市の木質化に関わる。最近ではグリーンクラフトを始め、異業種との関わりが増えたことで自身の技術や視野の幅が広がった。

各部会の当初目標と活動実績

＜3＞山村ミーティング・森づくりガイドライン（テーマ②、テーマ③）

○講演会「森林ボランティアの安全管理は甘すぎないか？」の実施

森林ボランティアの活動においては、ここ2・3年、死亡事故や重大事故が激増している。そのため、水野雅夫氏（Woodsman Workshop代表）を講師に招き、森林ボランティア作業における安全管理についての講演会を実施した。

○矢作川水源の森づくり合同研修会の実施

林業従事者の安全のため、7月14日に4森林組合（根羽村、恵南、岡崎、豊田）による合同研修会を実施。

豊田森林組合は、人材育成について中期経営計画にも入れ込み、職員に2年間専門教育を受けさせるといった方法を取り入れており、これらの取り組みについて講演頂いた。

また、伐倒練習機（ＭＴＷ－01）を使った実践的な訓練方法を実演され、どのようにトレーナーが指導法をマスターしていくのか、その成果と課題の共有を行った。

●森林組合間での連携が生まれている

各部会の当初目標と活動実績

＜4＞森づくりガイドライン（テーマ③）

○流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援（各市町村の活動報告）

豊田市の取り組み

第４次豊田市森づくり基本計画の見直しについて紹介された。
ポイントとしては、林業路網の維持管理コストの低減や、作業員の安全教育強化などを明確に位置付けている。取り組みの方針としては、＜公益的機能が発揮される森づくり＞ ＜木材の循環利用を進める森づくり＞ ＜地域づくりと一体となった森づくり＞ ＜人材育成と共働による森づくり＞としている。

岡崎市の取り組み

岡崎市の建築物等の木材利用の促進に関する基本方針（案）の変更に関する情報共有を行った。
本変更は、愛知県が策定した木材利用促進に関する基本方針（令和4年4月）に基づくものであり、これまで明記されていた「公共建築物」⇒「建築物」、「地元産木材」⇒「市産材」等に変更するなど、より幅広い対象物に、詳細な定義を加えた。

恵那市の取り組み

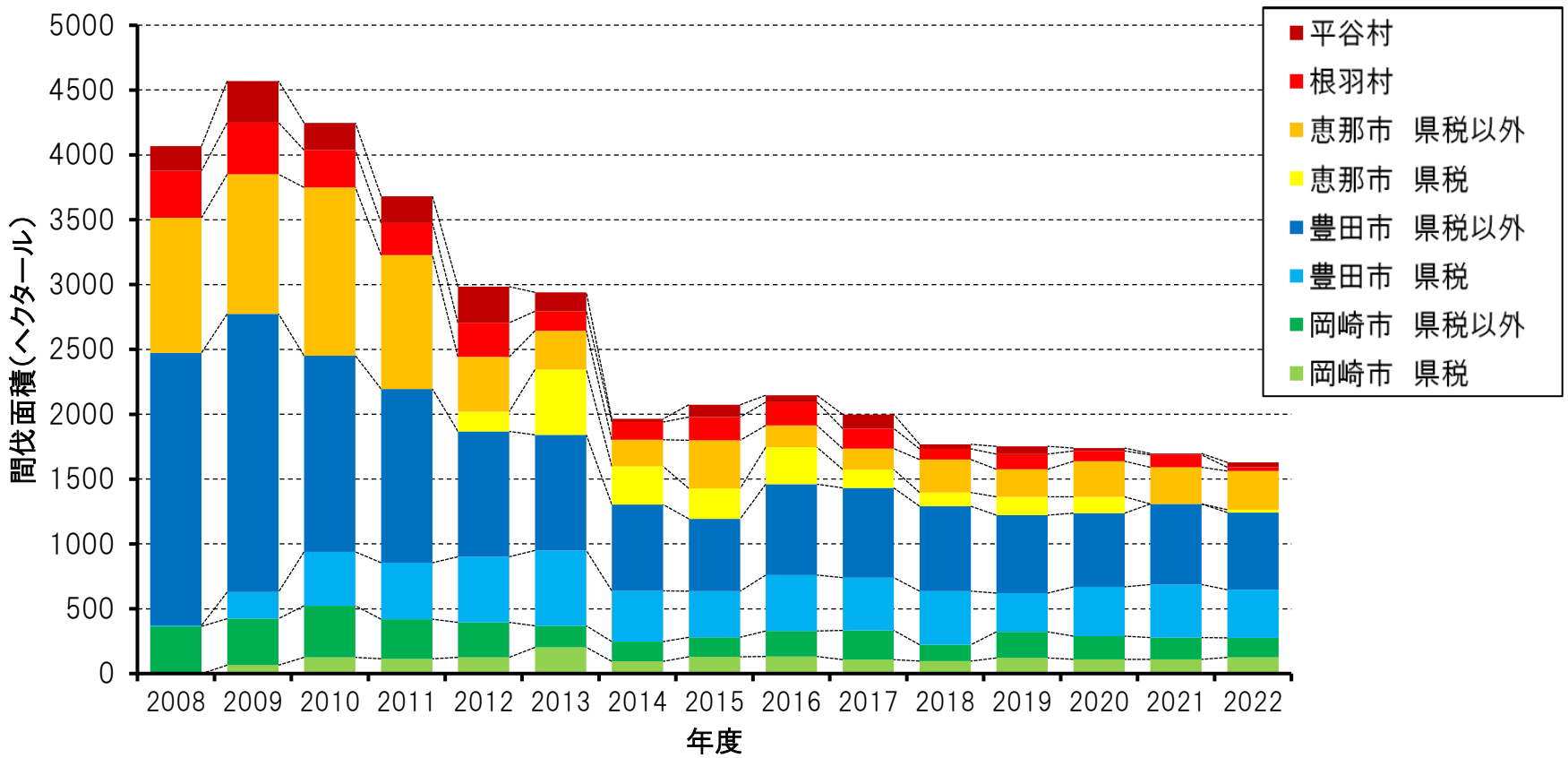
「えなの森林づくり実施計画」を柱とし、＜森林資源の活用を進めるための取り組み＞ ＜森林の多面的機能を守るための取り組み＞ ＜森林を支える人、地域を育てる取り組み＞ ＜森林づくりを実現するのに必要な地域の枠組みを構築する取り組み＞を実施。

- **森づくりガイドラインでの取り組みを通じて、自治体間での交流が生まれている。**

各部会の当初目標と活動実績

＜4＞森づくりガイドライン（テーマ③）

○矢作川流域圏での人工林間伐の状況



2009年から2014年の間に大きく減少しており、それ以降は2000ha前後で横ばい傾向。
2022年は傾向、間伐面積ともに前年と比較して大きな変化はない。

各部会の当初目標と活動実績

＜5＞ 木づかいガイドライン（テーマ④）

○竹の土木資材への活用事例紹介

南信州の事例が報告された。南信州においても放置竹林の問題が生じている。山部会では筏の材料やメンマといった食材への利用については共有してきた。今回は、盛土に竹を用いることで強度を補完でき、より急こう配でも盛土が耐えられる事例が紹介された。

○獣害対策の活動紹介

獣害対策として各種単木防護柵を実施したが、全てシカによる食害を受けた。皆伐して再造林の段階に入ったが、獣害対策が大きなハードルになっている。対策として周囲防護柵の設置や植栽地パトロールの実施を検討している。

○木育推進事業

・南都留森林組合と連携し、端材を使った空き家「ネバスギを使ったシェアハウス」の改装に取組んでいる。
・高知県梼原町の太郎川公園森林フェスティバル、山梨県甲府市の水源の森からマルシェ、山梨県のコッコ祭りに出向き、木育活動を行った。
・「青い空とビーチサウナ」として、「NEBA SAUNA」の特徴を紹介した。
・安城市と根羽村の親子山村留学をきっかけとし、太田氏の「森へおいでよ　矢作川水源の森へ」を紹介。
・根羽スギを使った建築物として、長野IC近くにある「おやきファーム」を紹介した。

○根羽村・林業のミライ合宿活動紹介

●上流地域と他地域の住民に繋がりが生まれている

根羽村での移住と林業の体験活動を実施。サポーターのほか、学生13名が参加。
「木材がどうやって作られ、どのように使われるのか」「林業と山村地域の関わりについて」などをFWを交えて学ぶことで、地域や林業の理解が深まったほか、地域と学生につながりが出来た。

各部会の当初目標と活動実績

＜6＞　フィールドワーク（5月　小原地区　地域活性化の取り組み視察）

豊田市小原地区で進められている、地域ブランディング活動「三河里旅（みかわさとたび）」の活動フィールドを見学しました。上流域に下流域の人々を呼び込む活動は、“流域を繋ぐ”という矢作川流域圏の取り組みの上でも重要となります。

○　三河里旅の活動紹介

・現地見学の前に、会議室で三河里旅についてご説明いただきました。三河里旅は旧小原村を拠点とし、地元の方に案内いただく三河の里山のディープなローカルツアーを紹介しています。

屋内での公演風景

山城解説の様子

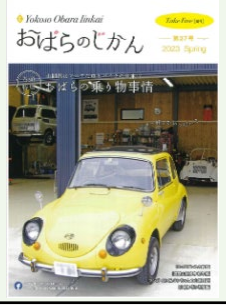
敵兵を迎え撃つ城壁と地形の解説

○　ローカルツアー体験「知ると楽しい 山城を知ろうツアー！」

・様々なツアーのうち、小原地区の山城をめぐるツアーをご案内していただきました。小原地区にある市場城をふもとから歩いて登り、「攻め込んでくる敵を一網打尽にするための切り立った通路」など、戦の時に重要な場所などのレクチャーをしていただきました。

○　地域の情報発信「おばらのじかん」

・小原地区では、小原地区での暮らしの魅力や特徴をお伝えすること等を目的に、通信誌「おばらのじかん」を発行されています。小原地区に興味を持つ地域外の方との繋がりを作るほか、小原地区を出られた方とも繋がり続ける“ツール”となっているようです。



各部会の当初目標と活動実績

＜6＞　フィールドワーク（7月　根羽村　森林の活用、村民活動拠点の視察）

根羽村で、森林活用の状態（ｊクレジットの活用を行っている森林、コウヨウザンの植栽箇所）と、様々な交流活動（山村留学で作成したウッドデッキ、新たにオープンした村民活動拠点施設）を見学させて頂きました。

○　Ｊクレジット対象林の視察

・温室効果ガスの吸収量をクレジット化して販売している森林を見学しました。対象森林は7haで、33.25トンのCO2を吸収しています。山を手放したい人も多い中、材を出す以外の収入源となるため、村民にもメリットがあるようです。

Ｊクレジット対象林視察風景

里山展望デッキ

くりや

○　里山展望デッキ、村民活動拠点「くりや」

・山村留学のご家族と根羽村森林組合が共働で作成したウッドデッキを見学しました。参加された方からは、自然の中で五感を使って体験する場が大切だという気づきがあった、と伺いました。

・村民交流拠点「くりや」(2021年オープン)を見学しました。テレワーク設備、シェアキッチンなどが設備され、交流や活動拠点として機能しています。

○　コウヨウザン植栽地の視察

・2年前に皆伐し、早生樹であるコウヨウザンを植栽した箇所を見学しました。獣害が大きな課題となっており、再造林が非常に難しい状況です。単木防護柵による獣害対策ではすべてシカに食害されたため、カプサイシンの散布、周囲防護柵の設置、植栽地パトロールなど各種対策の実施を検討しています。

コウヨウザン植栽箇所

各部会の当初目標と活動実績

＜6＞　フィールドワーク（９月　恵那市　養蜂場の見学）

恵那市に移住され、養蜂農家をされている上矢作養蜂場の加地様に、移住でのご経験や、地域交流の手段としての二ホンミツバチの養蜂についてお伺いさせて頂きました。

○　移住についてのお話し

・加地様が実際に移住をされた経緯と、地域に溶け込むまでのお話を、地元の方々とリフォームされた「あんきな家」で伺いました。

当初、地元の方から遠目で見られている気配があったが、地元の活動にも積極的に参加するなど親交を深め、養蜂を通じて地域に溶け込んだそうです。

あんきな家の様子

二ホンミツバチの巣箱

はたらく二ホンミツバチ

○　養蜂（二ホンミツバチ）の様子

・加地様が管理されているミツバチの巣箱を見学させて頂きました。庭先に4つの巣箱を設置されており、見学した際も巣箱周辺はミツバチが飛び交っていました。

二ホンミツバチの蜜は“百花蜜“といわれ、ひと瓶数千円の値段が付くこともあり、地域の特産品になる可能性もあります。

第13回の全体会議に向けての展望

令和5年・6年の活動目標

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（山村ミーティングと森づくりガイドラインは協働）を軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

テーマ別の活動目標

①流域圏担い手づくり事例集

・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ｖ」を刊行する。
・都市域の豊かさは流域圏の自然により成り立っているとの観点から、山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目し、都市域の住民を巻き込んだ流域再生を進めるための事例集づくりを行う。
・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
・事例集交流会を開催する。

第13回の全体会議に向けての展望

②山村ミーティング

・ 山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
・ 3年前までの矢作川感謝祭では、流域の森林組合員の参加が定着傾向にあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度はイベント自体が中止となった。今後は、このイベントが林業関係者の交流の場として、どのような役割を果たすのか、開催を支援しながら再検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
・水循環基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働（矢作川流域山づくりガイドブック策定）

・流域４森林組合の現場森林技能者育成と現行施業ガイドラインについてのヒヤリングを進める
・豊田森林組合で取り組まれている現場森林技能者育成トレーナー養成の実際の研修を４組合の現場技能者＋事務方で共有する。
・ヒヤリング結果と豊田森組トレーナー研修の感想から、流域全体の人材育成と山づくりガイドブック策定について検討する。

第13回の全体会議に向けての展望

④木づかいガイドライン（1）

【木づかいガイドラインの作成】

・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。

【「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作とその理念と製作方法を普及】

・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。

・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。

第13回の全体会議に向けての展望

④木づかいガイドライン（2）

【木づかいと森林アクティブ系・癒し系プログラムによる市民創造型プロジェクトの実施】

・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ　スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。

・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。

・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。

・神奈川県山北町において開催された「大人の木育」の講師を務めた流域連携から、現在南都留森林組合との連携事業がスタートした。今後、道志村のキャンプ施設を対象とした森林づくりワーク及び木のアイテムによるプレイスメイキングを進めていく。

【矢作川流域の活動拠点の木質化の事例収集と支援】

・学童保育、森の幼稚園、里山等で森づくりワークを進めていくにあたり、それらの活動拠点施設及びトイレが必要である。愛知県の学童施設に愛知県産材のスギ材が「板倉構法」として使われており、こうした事例を参考に矢作川流域材を活動拠点及びトイレ等の施設に活用していく。